

不動産業業況等調査結果（平成28年1月）

平成28年2月16日
一般財団法人 土地総合研究所

I. 不動産業の経営状況

不動産業を営む企業を対象としたアンケート調査をもとに、平成28年1月1日現在の経営状況および3ヶ月後の経営の見通しについて、「住宅・宅地分譲業」「不動産流通業（住宅地）」「ビル賃貸業」の3業種毎に不動産業業況指数を算定した（-100～+100、0が判断の分かれ目）。

「住宅・宅地分譲業」の現在の経営状況は、前回の調査時点から 8.7ポイント悪化し、20.7ポイントとなった。12期連続でのプラス水準となった。

「不動産流通業（住宅地）」の現在の経営状況は、前回の調査時点から 4.3ポイント改善し、2.9ポイントとなった。3期ぶりにプラス水準となった。

「ビル賃貸業」の現在の経営状況は、前回の調査時点から 2.5ポイント改善し、8.3ポイントとなった。7期連続でのプラス水準となった。

3ヶ月後の見通しについては、「住宅・宅地分譲業」は前期から 1.5ポイント改善の 0.0ポイント、「不動産流通業（住宅地）」は 8.0ポイント改善の -2.1ポイント、「ビル賃貸業」は 1.3ポイント改善の 16.7ポイントとなった。

1. 不動産業業況指数

	今回調査時点 (平成28年1月1日現在)		前回調査時点 (平成27年10月1日現在)	
	経営の状況	3ヶ月後の 経営の見通し	経営の状況	3ヶ月後の 経営の見通し
(1) 住宅・宅地分譲業	20.7	0.0	29.4	-1.5
(2) 不動産流通業（住宅地）	2.9	-2.1	-1.4	-10.1
(3) ビル賃貸業	8.3	16.7	5.8	15.4

【指数の作成方法】

$$\{(\text{良いとする回答数} \times 2 + \text{やや良いとする回答数}) - (\text{やや悪いとする回答数} + \text{悪いとする回答数} \times 2)\} \div 2 \div \text{全回答者数} \times 100$$

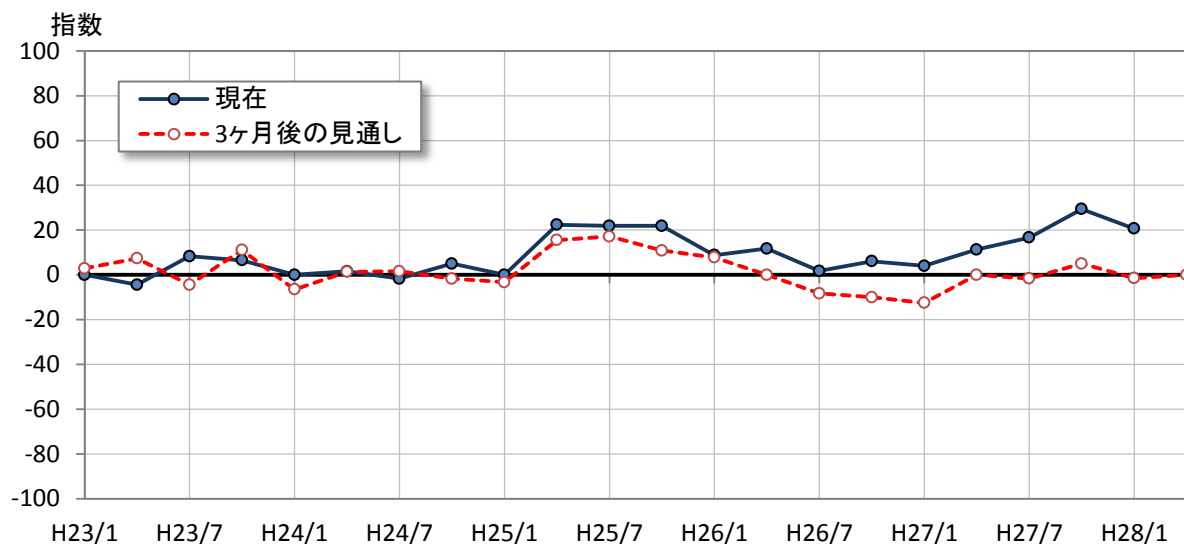
注. 「普通」、「変わらない」の回答は0として算定。

不動産業業況指数は、回答の全てが経営の状況を良いとする場合は+100、悪いとする場合は-100を示す。

2. 指数の推移

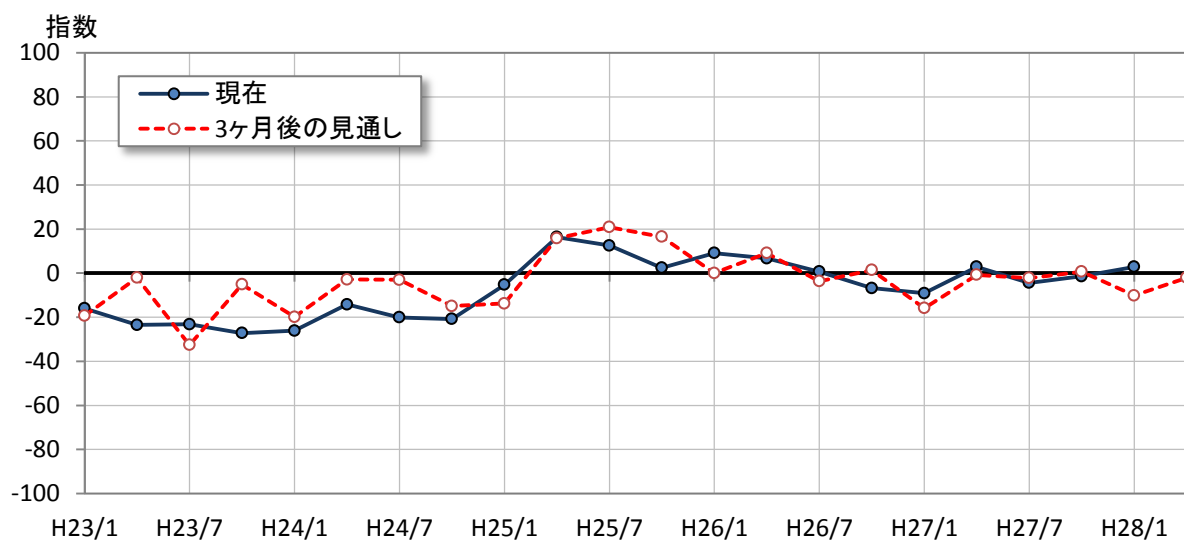
(1) 住宅・宅地分譲業

図表 I-1



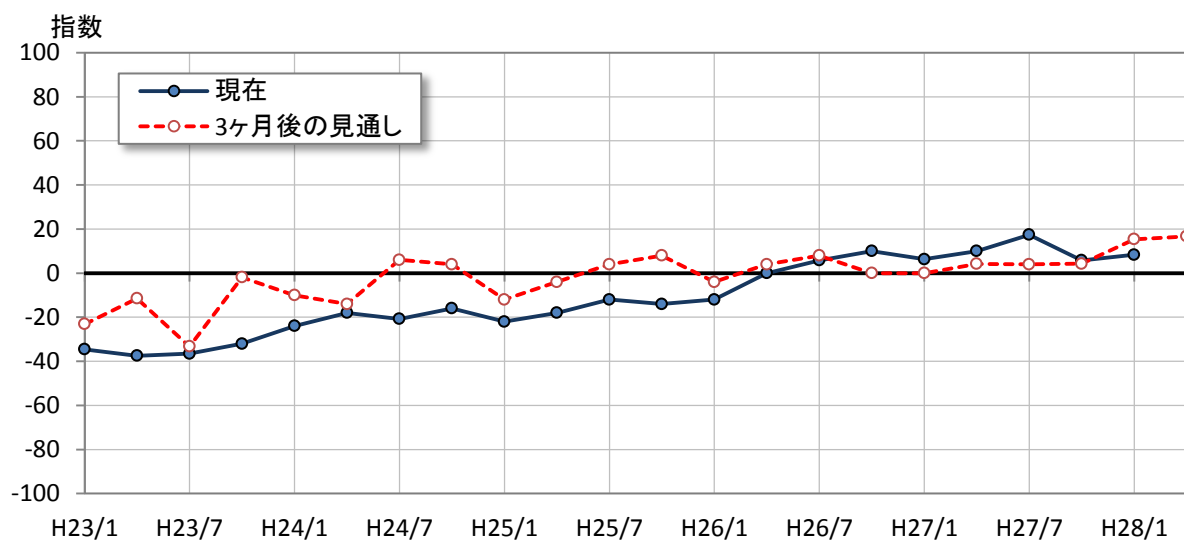
(2) 不動産流通業（住宅地）

図表 I-2



(3) ビル賃貸業

図表 I-3



Ⅱ. 各調査結果

1. 住宅・宅地分譲業

「①用地取得件数」の指数は、前回から 24.6ポイント低下し -18.5ポイントとなった。

「②モデルルーム来場者数」の指数は、前回から 29.0ポイント低下し -25.9ポイントとなった。

「③成約件数」の指数は、前回から 13.8ポイント低下し -13.8ポイントとなった。

「④在庫戸数」の指数は、前回から 5.1ポイント上昇し 35.4ポイントとなった。在庫戸数が減少傾向にあるとの見方が多い。

「⑤販売価格の動向」の指数は、前回から 11.5ポイント低下し 41.4ポイントとなった。平成24年7月以降、販売価格が上昇したとする回答が、下落したとする回答を上回っている。

(1) 各調査の動向指数

	今回調査時点 (平成28年1月1日現在)	前回調査時点 (平成27年10月1日現在)
①用地取得件数	-18.5	6.1
②モデルルーム来場者数	-25.9	3.1
③成約件数	-13.8	0.0
④在庫戸数	35.4	30.3
⑤販売価格の動向	41.4	52.9

【各指数の作成方法】

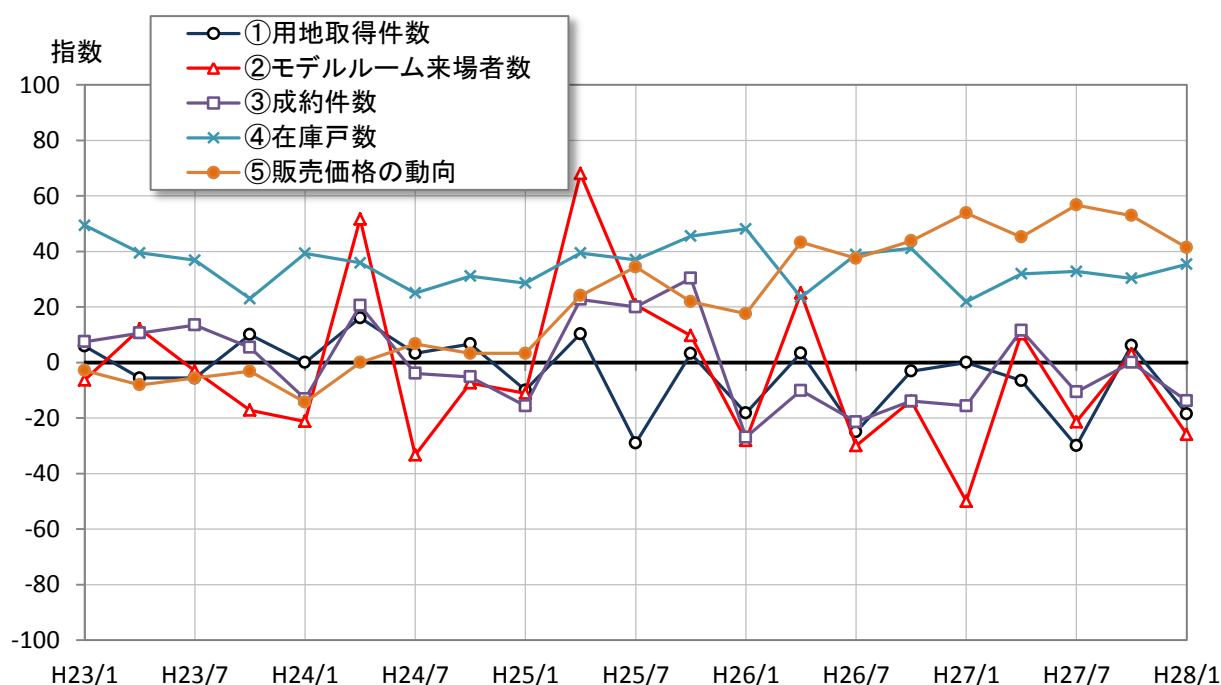
①②③⑤: {増加(上昇)したとする回答数 - 減少(下落)したとする回答数} ÷ 全回答数 × 100

④ : {減少したとする回答数 - 増加したとする回答数} ÷ 全回答数 × 100

(注) 「横ばいである」、「変わらない」の回答は0として算定。

(2) 指数の推移

図表Ⅱ-1



2. 不動産流通業（住宅地）

マンション(中古等)

「①売却依頼件数」「③成約件数」「④取引価格」の各指数は、前回からそれぞれ 8.0ポイント、4.9ポイント、6.4ポイント上昇した。「②購入依頼件数」の指数は、前回から 3.3ポイント低下した。売却依頼件数、購入依頼件数、成約件数は減少傾向に、取引価格は上昇傾向にあるとの見方が多い。

戸建(中古等)

「①売却依頼件数」「②購入依頼件数」「③成約件数」の各指数は、前回からそれぞれ 6.2ポイント、8.8ポイント、4.7ポイント上昇した。「④取引価格」の指数は、前回から 5.0ポイント低下した。売却依頼件数、購入依頼件数、成約件数は減少傾向に、取引価格は上昇傾向にあるとの見方が多い。

土地

「①売却依頼件数」「②購入依頼件数」「③成約件数」の各指数は、前回それぞれから 4.5、2.9、3.0ポイント上昇した。「④取引価格」の指数は、前回から 2.1ポイント低下した。購入依頼件数は増加傾向に、売却依頼件数、成約件数は減少傾向に、取引価格は上昇傾向にあるとの見方が多い。

(1) 各調査の動向指数

		今回調査時点 (平成28年1月1日現在)	前回調査時点 (平成27年10月1日現在)
マンション (中古等)	①売却依頼件数	-6.3	-14.3
	②購入依頼件数	-12.5	-9.2
	③成約件数	-14.1	-19.0
	④取引価格	14.1	7.7
戸建 (中古等)	①売却依頼件数	-13.2	-19.4
	②購入依頼件数	-9.1	-17.9
	③成約件数	-16.2	-20.9
	④取引価格	2.2	7.2
土地	①売却依頼件数	-1.5	-6.0
	②購入依頼件数	10.3	7.4
	③成約件数	-1.4	-4.4
	④取引価格	13.8	15.9

【各指数の作成方法】

①②③: {増加したとする回答数 - 減少したとする回答数} ÷ 全回答数 × 100

④ : {(上昇したとする回答数 × 2 + やや上昇したとする回答数)

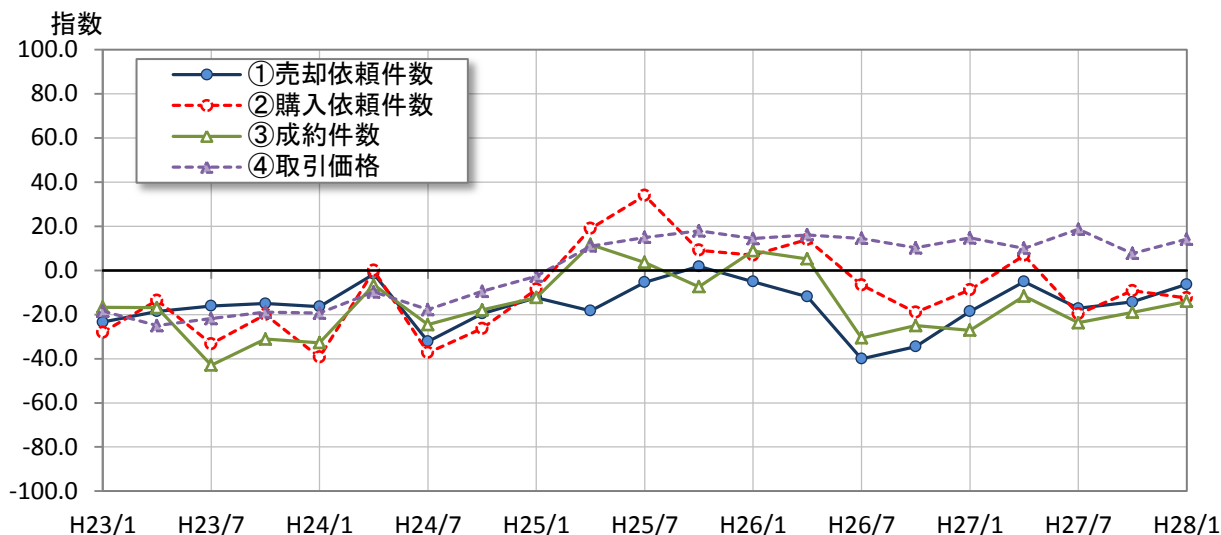
- (やや下落したとする回答数 + 下落したとする回答数 × 2)} ÷ 2 ÷ 全回答数 × 100

(注) 「横ばいである」の回答は0として算定。

(2) 指数の推移

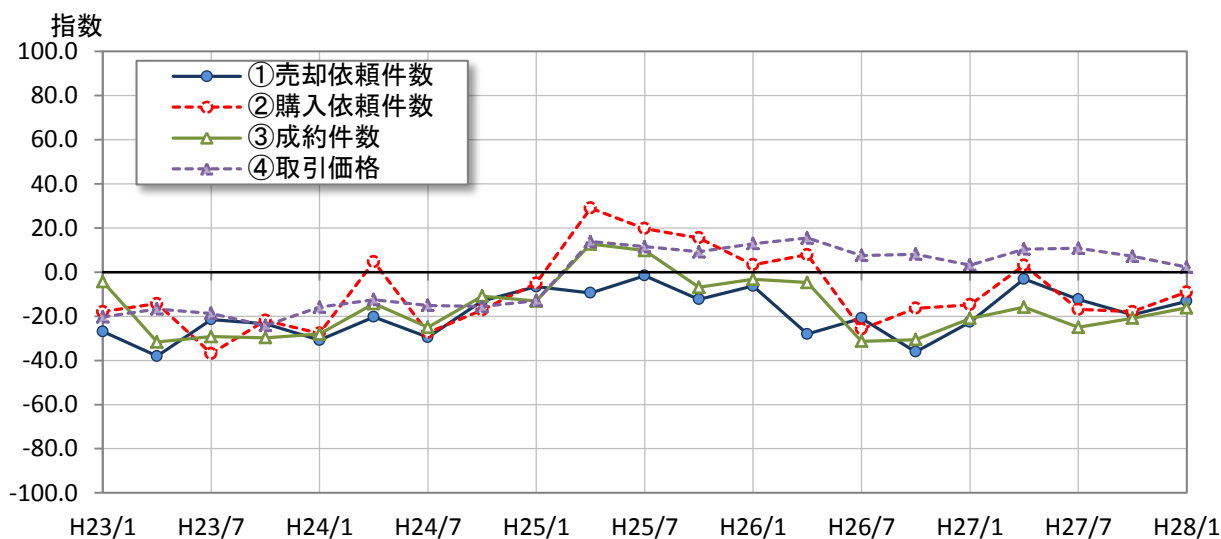
①マンション（中古等）

図表Ⅱ-2-①



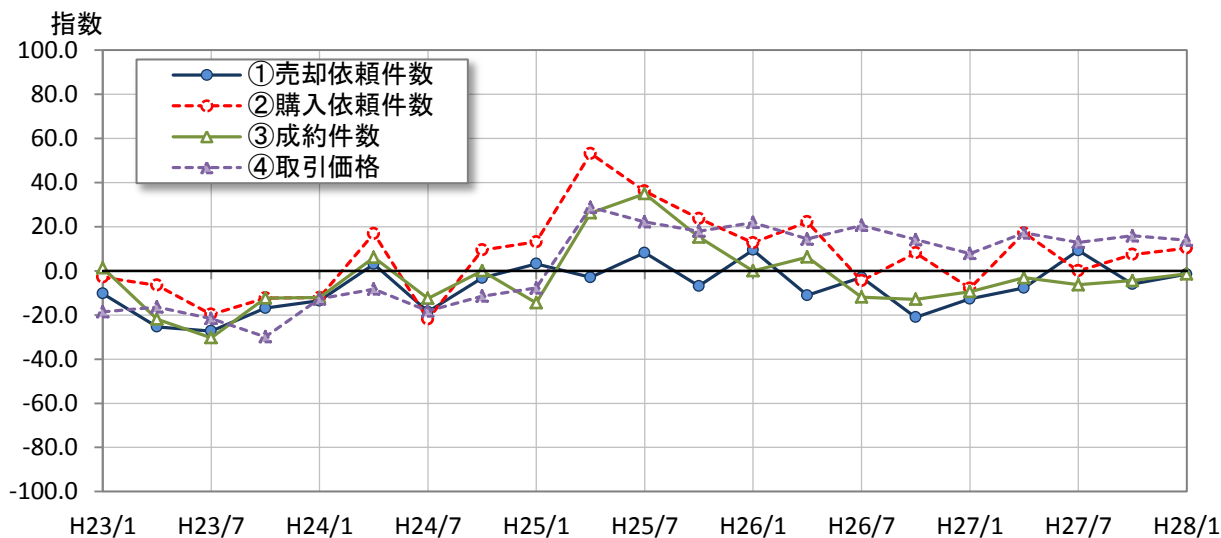
②戸建（中古等）

図表Ⅱ-2-②



③土地

図表Ⅱ-2-③



3. ビル賃貸業

「①空室の状況」の指数は、前回と横ばいの 33.3ポイントとなった。空室は減少傾向にあるとの見方が多い。

「②成約賃料動向」の指数は、前回から 13.1ポイント上昇し 34.8ポイントとなった。8期連続でのプラス水準となり、成約賃料が上昇傾向にあるとの見方が多い状況が続いている。

(1) 各調査の動向指数

	今回調査時点 (平成28年1月1日現在)	前回調査時点 (平成27年10月1日現在)
①空室の状況	33.3	33.3
②成約賃料動向	34.8	21.7

【各指数の作成方法】

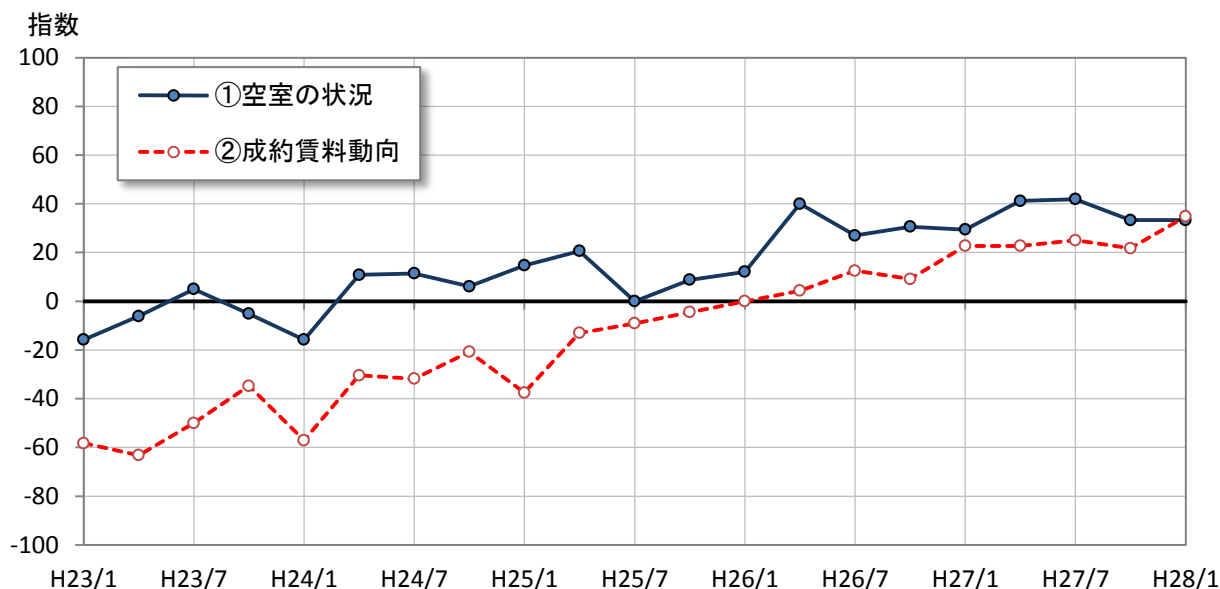
①: (減少傾向とする回答数－増加傾向とする回答数) ÷ 全回答数 × 100

②: (上昇傾向とする回答数－低下傾向とする回答数) ÷ 全回答数 × 100

(注) 「横ばいである」の回答は0として算定。

(2) 指数の推移

図表Ⅱ-3



調査の概要

1. 目的

本調査は、不動産市場における供給者及び需要者サイド並びに不動産流通（仲介）業者の動向を把握し、よりの確な不動産市場の需給動向を把握することにより、国土交通行政に資することを目的とする。

2. 調査対象

三大都市圏及び地方主要都市において不動産業を営む企業を対象に、不動産業の業種（住宅・宅地分譲業、不動産流通業（住宅地）、ビル賃貸業）、事業規模（大手業者、中小業者）等を考慮して、149社を選定した。

3. 調査時期

1月、4月、7月、10月

4. 調査項目

経営の状況、取引状況 等

5. 調査方法

郵送またはEメールによるアンケート調査

6. 調査機関

一般財団法人土地総合研究所

参考： 今回のアンケート回収率は以下のとおり

	対象数	回収数	回収率
住宅・宅地分譲業	45	29	64.4%
不動産流通業（住宅地）	76	70	92.1%
ビル賃貸業	28	24	85.7%
計	149	123	82.6%

【照会先】

一般財団法人 土地総合研究所 主任研究員 大越 利之
TEL:03-3509-6972
FAX:03-3509-6975
e-mail:gyoukyou@tochi.or.jp